

東浦町ごみの分別と減量をすすめる会会議録

会 議 名	令和7年度東浦町ごみの分別と減量をすすめる会	
開催日時	2026年2月5日(木)10時から12時30分まで	
開催場所	メモリー とんがったスタイル 文化センター 視聴覚室(2階)	
出席者	推進員	<p>阿知波 弘 (森岡連絡所長)</p> <p>森 大光 (森岡地区住民代表)</p> <p>二宮 邦子 (森岡台自治会長)</p> <p>赤尾 英美 (森岡台住民代表)</p> <p>水野 行文 (緒川連絡所長)</p> <p>山崎 宏子 (緒川地区住民代表)</p> <p>広瀬 元光 (緒川新田連絡所長)</p> <p>野村 欣哉 (緒川新田地区住民代表)</p> <p>向山 恭憲 (東ヶ丘自治会長)</p> <p>櫻木 壽志 (東ヶ丘自治会住民代表)</p> <p>飯田 光晴 (石浜連絡所長)</p> <p>五十嵐 めぐみ (石浜地区住民代表)</p> <p>石川 晃 (石浜中自治会長)</p> <p>神谷 信三 (石浜中自治会住民代表)</p> <p>山田 隆 (石浜西連絡所長)</p> <p>相木 一義 (石浜西地区住民代表)</p> <p>原田 正治 (生路連絡所長)</p> <p>松元 彩 (生路地区住民代表)</p> <p>竹内 元彦 (藤江連絡所長)</p> <p>江坂 晴 (藤江地区住民代表)</p>
	町出席者	<p>畔上 智 (環境課長)</p> <p>井高 佳一 (循環型社会推進係課長補佐兼係長)</p> <p>北田 裕貴 (循環型社会推進係主事)</p> <p>水野 久美子 (循環型社会推進係主事)</p>
議 題	<p>1 令和6年度可燃ごみ・資源ごみ等の排出状況について</p> <p>2 「もえるごみ」の名称変更について</p> <p>3 各コミュニティセンターでのリチウムイオン電池等の回収について</p> <p>4 廃食用油の回収方法の変更について</p> <p>5 資源ごみ拠点回収場所の拡大について</p> <p>6 アスパ配布の中止について</p> <p>7 資源ごみ収集日の広報ひがしうらへの掲載について</p>	

傍聴者	0名
-----	----

会議内容

循環型社会推進係長 開式のことば
傍聴者なしの報告
会議中の録音・写真撮影の了承

環境課長 参集御礼・あいさつ

循環型社会推進係長 本会議の目的と概要説明。

座長選出

本会設置要綱第5条の規定により、座長選出を行う。

藤江連絡所長から生路連絡所長の推薦あり。生路連絡所長が座長として承認される。

座長 みなさまにご協力いただき、より良い会議にしていきたいので、ご協力をお願いしたい。

議事進行

議題1「令和6年度可燃ごみ・資源ごみ等の排出状況について」事務局から説明した。

資料1

・資料1-1では、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの収集量と資源ごみの地区別収集量について説明。

・資料1-2では、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみの収集量のグラフについて説明。

・今後は、製品プラスチックやミックスペーパーの回収により、燃えるごみの減量に繋げていく。

【主な質疑等】

推進員 ごみの全体量は、パッケージによる過剰包装も大きいと思われる。全体のごみ量を減らすためには企業努力も必要。住民としては、燃えるごみと資源の比率を変える努力が必要だと思っている。燃えるごみ・不燃ごみ・資源の割合を出していただきたい。

事務局 今後の参考とし、作成していきたいと思う。

推進員 資源化率は出していないのか。

事務局 資源化率は出している。今回の会議での資料は準備していないためお示しできない。

推進員 今後の提案として、製品プラスチックと容器包装プラスチックを同じ日に回収できるシステムになるとよい。

事務局 製品プラスチックと容器包装プラスチックについて本町では分けて回収しているが、他市町だと一括回収しているところもあると聞いている。他市町の動向をみて、見直しも検討していく。

推進員 燃えるごみだけではなく、プラスチックについても分かりやすいように名称変更してみてはどうか。

議題2 「『もえるごみ』の名称変更について」事務局から説明した。

資料2

愛知県内4市の先行事例の紹介をした。本町では、2027年4月からの変更に向けて検討をすすめている。

【主な質疑等】

推進員 名称変更については問題ないが、他市町が名前を変えたからうちも変えるということだけではなく、変えたことによる効果や他市町の状況を確認しておく必要がある。

事務局 大府市は、2025年の4月から始めたため、検証はまだできていないとのことだった。本町としては、名称変更することで住民の意識の働きかけに繋がると思っているが、皆さんの意見を伺いながら検討していきたい。

推進員 今までの「燃えるごみ」の名称で良いと思っている。ごみ袋に印字する文字が増えるだけではないか。

推進員 住民への意識の動機付けとして、名称を変えるのであれば賛成する。

推進員 愛知県内のみだけでなく、他県の情報も教えていただきたいかった。

推進員 燃えるごみを分けていたつもりでも、住民の中には分別意識が低く燃えるごみに入れておいたら処理できると思う人もいるため、名称変更によって「資源になるのではないか」と考え直すためにも、名称変更による意識改革は賛成する。

推進員 名称変更の検討に至った理由を教えていただきたい。

事務局 住民の意識改革を促すために行っていきたいと思うが、その減量効果を数字で出すことが難しい。これを全て行政が主導で決めていくのではなく、住民の皆さんの意見を伺いながら判断していきたい。

推進員 東浦町が他市町や目標値に比べ、減量が進んでいるのであれば、名称を変更する必要はないと思う。目標値に比べ住民が協力してくれないのであれば変更したらよいが、そうした根拠となる資料がないため判断できない。

事務局 本町の現状の分析が不十分だった。改めて整理して相談したい。

推進員 名称変更により、新しいごみ袋の製造や古いごみ袋の廃棄のコストが同等でかつ住民が分かりやすくなるのなら良いと思う。そうしたことを見込んだうえで、皆で判断できると思う。

事務局 名称変更によって過去に作ったごみ袋を廃棄することはない。名称変更によりコストがかかることはないと考えている。

推進員 有料化の時は、方針が決定してから住民説明会が行われたため、住民の意見は聞かれなかった。名称変更によって捨てるものの定義が変わるのか。変わらないのなら、変える必要はない。そうした所もよく考えていただきたい。

事務局 ご意見を参考に、深く考え方向性を出したい。

推進員 袋の名称を変えるだけだと意識改革は難しいのではないかと。ごみ箱に「燃やすしかないごみ」と貼って意識付けしたり、ごみ袋の販売の値札に付けるとか工夫しないと改革は進まないのではないかと。子どもへの教育も必要ではないかと。

事務局　ごみの分別は、法律の改正等によって変わっていく。
子どもへの教育としては、申し出のあった学校で出前講座を行っている。

推進員　名称変更した場合、広報やポスターチラシで周知すると思うが、できれば各地区で住民説明会を開催していただきたい。ポスターで示すだけでは浸透しないと思う。実際に見本を持ってきて説明しないと、根本的な解決にはならないため、住民説明会を開催していただきたい。

推進員　小学生に出前講座を行うことによって意識改革に繋がるのではないか。小学生が勉強して地域に持ち帰ってもらい、地域住民にフィードバックしてもらえると、大人もしっかり分別しなきゃと思うのではないか。

推進員　月に1回自治会の集会有り、役員が集まるのでそこで展開できる。出前講座のような良い情報は、教えていただきたい。

推進員　燃やすしかないごみは分かりやすいと思ったが、もう少し考えていきたい。

事務局　住民の意見を伺ったうえで、進めていきたい。この会議でも意見を伺って進めていくことも一つの方法だと思っている。

推進員　今回、意見が言えるかもしれないと思ってこの会議に参加しているが、可能ならもう少し早く議題を教えていただけると、他の住民の意見を持って参加することができる。

推進員　年に2回行ってもらえると、1回目の時に持ち帰って2回目で回答することができる。

議題3「各コミュニティセンターでのリチウムイオン電池等の回収について」事務局から説明した。

・現在、リチウムイオン電池・モバイルバッテリー・ボタン電池やコイン電池は、環境課の窓口で職員に手渡しするか、町内協力店で回収している。回収する場所が少ないため、今回各コミュニティセンターでの回収を検討していきたい。

・コミュニティセンターでの回収時期は未定だが、回収フローの確立と安全性が確認でき次第、進めていきたい。

・回収想定は、リチウムイオン電池、ニカド・ニッケル水素電池、コイン・ボタン電池、モバイルバッテリー、加熱式たばこ、リチウムイオン電池が含まれるもののうち、

膨張したもの、破損・変形しているもの。

・課題は、誰が回収するのか、保管に適した箱が安価に購入できない、膨張や破損・変形したリチウムイオン電池等は発火の可能性が高いためクリーンセンターに持ち込みたいが、誰が持ち込むのか。すぐにコミュニティセンターで回収することは難しいと考えるが、皆さまの意見をいただきたい。

【主な質疑等】

推進員 コミュニティセンターの廃乾電池にリチウムイオン電池等を持ってくる人がいるため、断っている。住民の利便性は向上するため前向きに考えていきたいと思う。安全に回収することが第一のため、回収方法は十分に検討していただきたい。

推進員 積極的に回収していったらよいと思う。回収場所が環境課だけだと、コミュニティセンターの廃乾電池ボックスに捨てられてしまう。持ってきたから置いてかれてしまうよりかは、コミュニティセンターの職員で手渡しで回収し、安全なボックスに入れることがスムーズなのではないか。やれる方法を検討していただきたい。燃えないごみにも電池が捨ててあるため、住民に火災の危険性を徹底して周知するしかないと思う。

推進員 コミュニティセンターで回収する場合、窓口で預かる形になるのか、リチウムイオン電池等専用のボックスを用意して、住民が入れていくのかどのようなになるのか。

事務局 安全が確保できるボックスがあれば玄関に置いてもよいと思うが、膨張や破損・変形しているものはボックスに入れた衝撃で発火する可能性もあるため、できれば手渡しで回収したい。

推進員 窓口で回収となると、コミュニティセンター職員の仕事が増える。コミュニティセンターの職員は他の仕事もしているため、窓口で回収しなくてもよいようにボックスを設置していただきたい。

推進員 廃乾電池を回収した後に、入れてはいけないものがどれくらい入っているか把握はしているか。

事務局 そうしたものの量は把握していないが、電池のリサイクル先は、アルカリマンガン電池やボタン・コイン電池等全て同じ業者に送っている。

推進員 膨張や破損・変形したものを東部知多クリーンセンターに即時に持ちこみたいとあるが、コストをかけて処理をしていると思うが、クリーンセンターで処理ができるのか。

事務局 リサイクルに回せるものはリサイクルしているが、発火の危険性があるものは長期間保管できないため、危険性のあるものだけ持ち込んでいる。

推進員 住民がクリーンセンターにリチウムイオン電池等を持ち込んでもよいのか。

事務局 住民が直接クリーンセンターに持ち込むことはできない。環境課で回収した物の中で、危険性のあるものを持ち込んでいる。

推進員 ごみの分け方・出し方ポスターに町内協力店とあるが、名前が書かれていない。一覧に書くことはできないのか。

事務局 町内は、役場以外に現在2店舗ある。新田地区に1店舗、緒川地区に1店舗ある。店名を書いている理由は、民間業者がJBRCと直接やりとりをして協力店になっているため、随時変わっていく。その把握ができないため、店名を書いている。

推進員 住民が膨張したリチウムイオン電池を持って、コミュニティセンターに駆け込んできたことがあった。膨張したリチウムイオン電池等を持ってきたり、相談される件数はどれくらいあるのか。

事務局 リチウムイオン電池等の問い合わせは、月に3・4件ある。今年度は昨年度よりも多く持ち込まれており、環境課ではほぼ毎日回収している。

推進員 高齢者は、意図せずリチウムイオン電池を使用している可能性がある。コミュニティセンターでの回収だけではなく、ゴミステーションでの回収など色々な方法を検討していただきたい。

事務局 電池を回収する業者に確認したことはあるが、地域のごみステーションでモバイルバッテリー等を回収することは懸念している。発火の危険性があるため、まずはコミュニティセンターに設置し、その後住民への利便性を検討していきたいと思う。設置の方向性が決まったら「ハンディファンや充電式カイロには、リチウムイオン電池が使用されているためここには出さないでください」と言った、より具体的な周知の仕方も検討していきたい。

議題4「廃食用油の回収方法の変更について」事務局から説明した。

・廃食用油の回収方法を変更すると資料には書いたが、回収方法について意見を伺っていききたい。

・回収業者より作業時間短縮のため、2026年3月の回収を最後にドラム缶回収からペール缶回収にしたいと相談があった。

・町の対応としては、廃食用油をペットボトル等の容器に入れて、そのまま回収する方法がよいと考えているが、使い捨て容器の処分費がかかってしまうため、繰り返し使用できる容器に入れてもらうなどの回収方法を検討し、確定次第地元区にお伝えしていく。

【主な質疑等】

推進員 ドラム缶での回収は、受け皿に油が浮いている様な時もあり住民も入れるのに苦労しているため、容器に入れて出せることは良いと思う。ただ保管方法は、可燃物でもあるため昼間や夜間の取扱いのルールを決めて行っていただきたい。

推進員 資料に書かれている変更方法で、「廃食用油の入った容器(ペットボトル等)が、各設置場所でごみとして出され、処分の手間がかかってしまう」というのは、どういうことか。ペットボトル等で回収することへの弊害が書かれているのではないか。

事務局 現在、ドラム缶に注ぐために家庭からペットボトルなどの容器に油を入れて持ち込んでいる。その持ってきた容器は持ち帰る方もいれば、その場で捨てていく方もいる。捨てられるごみ箱を設置している場所では、職員が回収する手間がかかっている。

今回の提案内容は、容器のまま回収することによって、職員の手間や住民の手間はかからなくなるが、油の回収業者の手間になるためお伝えした。

だが、容器の回収は一旦、白紙になっている。

推進員 容器のまま回収できることは賛成のため、そうなるよう頑張ってください。

推進員 現状維持のドラム缶での回収で良いと思う。業者の仕事が増えた場合の費用対効果を考えていただきたい。

議題5「資源ごみ拠点回収場所の拡大について」事務局から説明した。

- ・役場と森岡コミュニティセンターで行っていた資源回収の拠点ステーションを令和8年4月から卯ノ里コミュニティセンターと藤江公民館に拡大する。
- ・回収する品目は4種類（アルミ缶・スチール缶、びん、ペットボトル、製品プラスチック）で、拠点回収場所の整理業務として人員を派遣し、違反ごみの整理等を行っていく予定。

【主な質疑等】

推進員 2年前に拠点ステーション設置の話があったが、違反ごみ等の整理を誰が行うのかという課題があった。今回、整理の人員を派遣することが可能になったため、拠点ステーションを設置することとした。

推進員 現在拠点ステーションを、朝昼晩確認している。違反ごみが出されているとそれを見て、捨てられると思った方が捨てる可能性があるため、撤去している。容器包装プラスチックは回収できないが、捨てられている場合、見えるところにぶら下げて、違反ごみは持ち帰るよう促している。

年末年始の長期休暇はたくさんの違反ごみが出されたため、その期間の回収は廃止にしたい。そうでないと次の連絡所長に引き継ぐことができない。地域で拠点回収することで、リサイクル量が増えメリットになると思ったが、逆の問題も出てくる。

推進員 拠点回収場所は多くの住民が持ち込みやすいよう公民館としたが、公民館には常駐職員がいないため、年末年始等は出せないように運営できたらと思う。ステーションの整理業務の人は、週2回来られるようだがそれで間に合うのかが懸念点である。将来的には毎日来ていただきたいと思う。

議題6「アスパ配布の中止について」事務局から説明した。

- ・アスパの配布は、2026年3月をもって終了する。
- ・町では一般廃棄物処理基本計画を作成しており、その中で一人一日当たりの家庭系ごみの排出目標を429グラムと定めている。有料化以降減少を続けており、ごみの減量が順調に進んでいると判断し、アスパの役割を終えたと考えた。
- ・去年の11月から生ごみ処理機の無料貸出を開始し、この事業を推進していく。

【主な質疑等】

推進員 今日朝も3人くらい取りに来た人がおり毎日取りに来られる。いきなりやめて大丈夫かと心配している。やめることへの感触はあるか。
そして生ごみ処理機の貸出は4台ということだが、アスパの配布が終了すると借りたい人が多く出てくるのではないか。

事務局 アスパを取りに来た人に話を聞いた際、畑に蒔いているという話があった。アスパによる減量の効果があったかは、疑問となっていた。

生ごみ処理機の貸出は、反響が大きく予約も埋まっている状況である。生ごみ処理機購入補助金を導入する見込みはないが、体験していただいて、生ごみ処理機を使用していきたいという気持ちに繋げていきたいと思う。

推進員 ごみの減量には住民の協力が重要であると考え、アスパの販売や利用している方の声を聞くことも必要だと思う。ごみ減量の目標がある中で、処理機の補助金の検討もしていただきたい。

推進員 アスパを町外の住民が持って行くのを目撃した。

推進員 利用者が多くいるので、中止の告知の準備をしているのか。

事務局 来年度の予算には計上されていない。
2月の3週目頃から、アスパの配布場所にチラシを貼っていく。併せて町公式ホームページにも掲載する。

推進員 広報には掲載されるのか。

事務局 掲載する予定はない。

推進員 掲載しないのであれば、回覧で周知してもよいか。

事務局 ぜひ周知していただきたいため、回覧の原稿はこちらで準備させていただく。

議題7「ごみ収集カレンダーの広報ひがしうらへの掲載について」事務局から説明した。

・広報に掲載している資源収集カレンダーが分かりにくいという意見があり、一部の

地区ではカレンダーを作成しているため、広報への掲載を辞めてホームページで閲覧できるようにしていくかなど皆さまから意見を頂戴したい。

推進員 自治会等から抜けてしまった人は、広報を頼りにしている人がいると思う。

推進員 やめる理由は。

事務局 広報への掲載が、カレンダー形式になっておらず、数字だけを記載しているため分かりづらく、参考に使っている人が少ないのではないかという意見があった。

推進員 広報を参考にしたことはない。ごみのポスターや年末年始であればそのカレンダーを参考に使っている。隣に引っ越してきた人は、ごみステーションで何が出せるのかを見て確認したと言っていた。
若い世代は参考に使っている人が少ないと思った。

事務局 事務局だけでは決められないと思ったため、地区によって事情も異なるため、代表の皆さまに意見を伺った。そうした意見を確認してから判断していきたい。

推進員 資源ごみは第5週の回収はないため、その辺りが心配。

その他

【主な質疑等】

推進員 資材置場を作りたいと相談があり、住民説明会が開かれた。廃棄物や不法投棄のことは、環境問題に繋がるため心配している住民が多い。そうした場所には町で見回り等していただきたい。

推進員 自宅でバーベキューを行った臭いの苦情が自治会に入った。そうしたことを辞めるルールを自治会内で作ってほしいという申し出があった。そのような注意ができるか自治会から役場に確認したら、自宅内でのことは役場からは何も言えないと言われた。煙を発生させることへの限度や基準はあるのか。

事務局 事業活動における規制がほとんどで、個人の敷地内でバーベキューをやることに対しての法律規制は把握していない。

閉会